

実習日：平成 29 年度第 I 期 7 月 5 日  
実習先：大分市医師会立アルメイダ病院  
大学名・学年：九州保健福祉大学 5 年  
氏名：稲村洋平

大分ゆふみ病院では、朝のショートカンファレンス、院内見学、注射調剤、麻薬の取り扱い、服薬指導の練習、患者さんとの会話、院長先生の講義、医療職カンファレンスを体験しました。

院内見学では、病室を見学したり、家族控え室を見学したりしました。病室の内装は、病院という感じのものではなく自宅の一室のような雰囲気でした。患者さんと一緒に家族の方も病室で宿泊できるようになっていて、お風呂も開放されていて、食事も事前に言えば 3 人分まで提供してくれるので、患者さんにとっても家族の方にとっても居心地がいい環境だと感じました。見学した日は雨だったので、よく見ることはできませんでしたが、中庭を車椅子やベッドで散歩することができるので気分転換にいいと感じました。一般病院では、食事の時間や消灯時間など、1 日の流れが大まかに決まっていますが、大分ゆふみ病院では、食事の時間は 2 時間までずらすことができ、消灯時間も決まっていないので患者さんが自由に過ごす環境だと感じました。

院長先生の講義では、ホスピスケアの対象が患者だけでなく、家族も対象になるということ学びました。ホスピスでできることとして、患者さんの話に耳を傾けて、支えることで安心感を与えることができ、心の不安を和らげること、積極的ながん治療が難しくなったからといって、何もしないわけではなく、体の苦痛を和らげることができるということを感じました。

自分が薬剤師になったときに、何かしらの認定をとって、自分の可能性を広げることができるようにしたいと感じました。